

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 30 日現在

機関番号：72681

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2011

課題番号：19520294

研究課題名（和文）インド古代説話の形成-『ブリハット・カタール』のカシミール伝本成立を
探る研究課題名（英文） The formation of ancient Indian folklore: A study of the Kashmiri
version of the Brhatkatha

研究代表者

柴崎 麻穂 (SHIBAZAKI MAHO)

財団法人東方研究会・その他部局等・研究員

研究者番号：30342679

研究成果の概要（和文）：

グナーディヤ作『ブリハット・カタール』（2～4 世紀?）は、原本は失われ、後代の諸伝本が現存する。本研究では、現存する唯一の完本で、いずれも 11 世紀にカシミールで成立したクシェーメンドラ作『ブリハット・カタール・マンジャリー』とソーマデーヴァ作『カタール・サリット・サーガラ』の枠物語の構成と挿話を比較分析した。その結果、共通典拠であるカシミール・ブリハットカタールの忠実な簡約版を作成したクシェーメンドラに対し、ソーマデーヴァは主人公の王子の活躍に重点を置き、内容に大きな変更が生じない程度に作品の再構成を試みたことが分かった。

研究成果の概要（英文）：

The Brhatkatha of Gunadhya, thought to have originated between the 2nd and 4th centuries AD, plays a central role in Indian folklore. The original has been lost, but the story exists in a number of versions. This research is a comparative analysis of the only two complete extant versions, the Brhatkathamajari of Ksemendra (1037) and the Kathasaritsagara of Somadeva (1063-1081); both are from Kashmir and derive from the Kashmir Brhatkatha, which is also lost. This research compares the structures of the main plot, and also the content of the additions made to both versions. It finds that while Ksemendra has produced a faithful simplified version of the Kashmir Brhatkatha, Somadeva has attempted a restructuring of the story that gives a prominent role to Prince Naravahanadatta while minimizing the changes to the plot.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	249,684	74,905	324,589
2008 年度	750,316	225,095	975,411
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：インド古代説話、『ブリハット・カタール』、クシェーメンドラ、ソーマデーヴァ

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

インド古代説話集、グナーディヤ作『ブリハット・カタール（偉大なる物語）』（以下 BK、2～4 世紀?）は、ヴァツツァ国王ウダヤナの息子ナラヴァーハナダッタが数々の恋愛、冒険を経て、ヴィディヤーダラ（半神族の一種）の転輪王になるまでの経緯が綴られている。BK はインド説話文学（いわゆる Katha 文献）の中核をなす作品であり、また世界最大の説話集でもある。インドの二大叙事詩マハーバータとラーマヤナと並び、インド文学史、インド文化史を解明する上で極めて重要な作品といえる。この BK 原本は失われたが、後にネパール伝本『ブリハット・カタール・シュローカ・サングラハ』（BKSS、9 世紀）、カシミール伝本『ブリハット・カタール・マンジャリー』（BKM、1037 年）と『カタール・サリット・サーガラ』（KSS、1063-1081 年）、ジャイナ教伝本『ヴァスデーヴァ・ヒンディー』（VH、6 世紀?）、タミル伝本『ペルン・カダイ』（PK、8-11 世紀）など BK の要約・改作本が作られ、現在まで伝えられている。いずれも原 BK の骨組みを保ちながら、およそ 500 年の時を経てそれぞれの地域の文化的・社会的背景を反映した作品群を形成している。

これまで、BK 伝本に収められたいくつかの物語を、カシミール伝本 KSS と BK を中心に関連作品を比較分析し、各物語の変遷を求める研究を行ってきた。その結果、KSS と BKM は現存しない Kashmirian Brhatkatha (KBK) を同一の原拠としながら、主話の構成や重要な挿話には様々な相違が認められた。

2. 研究の目的

KSS と BKM は、11 世紀のカシミールでほぼ同時代に成立したにも関わらず、どうしてこのような違いが生じたのか？

本研究では、BK 伝本のなかで唯一完本として残っているカシミール系伝本 KSS と BKM を中心のテキストとし、その枠物語の構成と、主題に関連して語られる挿話を関連文献と比較対照しつつ精読・分析し、両伝本の相違が何を意味するのか、作者ソーメンドラとクシェーメンドラがそれぞれどのような経緯で、またどのような意図を持って作品を執筆したのかを考察する。

本研究を通して、BKM と KSS がどのような社会的要請のもとで執筆されたのか、11 世紀当代の著名な二人の宮廷詩人がどのような関係にあったのかを解明したい。

3. 研究の方法

カシミールの BK 伝本の BKM と KSS はいず

れも全 18 巻よりなる大部の説話集であるが、その枠物語の内容は次の三部分-I. BK 起源譚、II. ウダヤナ王行状記、III. ナラヴァーハナダッタ王子行状記-によって構成されている。このうち、枠物語の中心となる第 III 部、特に主人公ナラヴァーハナダッタの誕生の経緯（第 4 巻）と青年期から結婚の経緯（第 7, 8 巻）、そして様々な冒険を経た後に、半身族ヴィディヤーダラの転輪王となったナラヴァーハナダッタが親族一同の前で、自らの半生を語る場面（第 18, 19 巻）の構成には両伝本に大きな違いが認められる。本研究では、これらの不一致が認められる巻を中心に BKM と KSS の比較分析を進めた。

(1) 基礎研究（テキスト講読）：二伝本間に相違の見られる以上の巻を中心に BKM と KSS の二テキストを比較しつつ読み進め、両本の相違を明確にするよう努めた。先行研究により、原 BK に最も近い内容を保持すると考えられる BKSS と対照しながら比較分析の基礎データを収集した。

なお、本研究に着手した 2007 年に出版し、諸般の事情から当初の計画を修正する必要が生じたため、やむを得ず第 18, 19 巻の詳細な分析は次の研究に委ねることとした。

(2) 関連文献・資料の調査と収集

① 写本調査：BKM と KSS、BKSS などの写本情報は、近年ヨーロッパや特にインドの図書館・研究機関で Web での公開がより進められている。その結果、BKM と KSS について複数の写本を確認し、そのうちいくつかを複写入手した。KSS の一写本は年代の特定など不明な点が多く、写本の背景について今後も調査する。

② 関連論文・研究の調査。①とともに随時複写・購入した。

(3) 現存テキストの校訂：対象となるテキスト講読の際には、これまで入手した写本を参照し、現テキストの読みに問題がある箇所を中心に比較・分析を進めた。

4. 研究成果

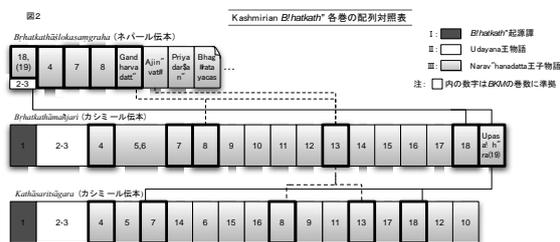
(1) カシミール伝本の特徴

BK のカシミール伝本、BKM と KSS は BK を再構成し、多くの挿話を加筆した KBK を共通の原拠とするが、カシミール伝本に共通する特徴は以下の 4 点である。

- ① 全 18 巻
- ② 時系列編成で、物語の話者は 3 人称（ネパール伝本は 1 人称）[図 1]

- ③ 第1巻ではBK成立の由来が語られる（現存するネパール伝本には対応部分なし）。ここでは、BKは元来シヴァ神が王妃パールヴァティーに語った神聖な物語とされる。BKの本来の内容には七人の転輪王の物語が含まれており、現在BKとして人々に知られているのは、第七番目の転輪王、Nv王の物語のみという。
- ④ 全体を通じてシヴァ神崇拜（ネパール伝本BKSSではクベーラ神）の記述が多出。主人公Nvは出生前にシヴァの恩寵によって将来半神族ヴィディヤダラの転輪王となることが約束される。

図1



(2) クシェーメンドラのBKM

BKMは、典拠であるKBKに忠実であり、時系列に再配列されたKBKに残る原BK(あるいはネパール系BKと近い関係にある何らかのBK伝本)の名残が見いだされる。従って、BKMはKBKの原型を知るには重要な作品といえる。しかし、KBK簡約化して執筆する過程で、既知のエピソードが時に極度に省略されたり、ある場面の描写に過度な技巧を凝らした長文が用いられるなど、全体のバランスを欠いた作品ともなっている。

BKMはクシェーメンドラが詩人としてまだ駆け出しの頃に、バラモンの要請を受けて執筆された作品である。作品全体のバランスを欠いていることから、かなりの短期間に仕上げたものと思われる。クシェーメンドラはその後の詩人活動で、BKM以外にも二大叙事詩や仏教説話集など同様の簡約版を多く作成した。

(3) ソーマデーヴァのKSS

KSSは、BKMとさほど内容的な隔たりはないものの、全18巻の配列に変更を加えているのは、大きな特徴である。BKMの内容と対比して示すと、第一妃との結婚のエピソード(BKM7)の後に、Nvの恋愛物語(BKM14-16)をまとめて配置し、第一妃マダナマンチュカー誘拐にまつわるエピソード(BKM8)、これに直接関わる(BKM9, 11, 13)を連続して配列。最愛の

王妃を得て、Nvが大団円を迎え、ヴィディヤダラの転輪王となる一連のエピソード(BKM17, 18)、最後に転輪王となったNvが第一妃マダナマンチュカーをさらわれ失意にあった時のエピソード(BKM12, 10)を回想の形で語る(図1参照。なお下線は本研究で両伝本のテキスト比較を行った部分)。則ち、ソーマデーヴァはこの再構成によって、主人公Nvの活躍を中心に据えた物語として、ストーリー展開に整合性をもたせ、より適切に配列することを心がけたと思われる。とはいえ、この再構成によって時に辻褃の合わない場面や描写も認められる。こうした箇所をBKMと比較すると、BKMには同様の矛盾が見られないことがほとんどである。

ソーマデーヴァはKSSの冒頭で、執筆に際する自らの立場を次のように記している。

実に本書は原本そのままであって、両者の間には少しも隔たりがない。

ただ書物の広がりをもつたこと、そして言語が異なっているに過ぎない。

(KSS 1.1.10)

そして力の及ぶ限り、適合性と(内容の)整合性を保持し、物語の情趣を損ねないように、カーヴィヤの一部を確実なものとするのである。(KSS 1.1.11)

私は自らの技量について名声を得るためにこのように努力するのではない。様々な物語の網の目の記憶を容易にするためである。(KSS 1.1.10)

またKSS執筆の目的について、「たとえ一時でも、(当時の王妃であった)敬虔なスールヤヴァティーの心を喜ばせられるように」(KSS Prasasti 11)と巻末の辞でその心情を吐露している。これは、当時カシミールでおこっていた政情不安(1063-1081)を背景とする記述と考えられる。則ち、ソーマデーヴァが仕えていた王宮ではアナンタ王とその息子カラシャ王子との間に王位継承をめぐる争いが起きていた。KSSはそのただ中に置かれていた王妃にあてて執筆された作品である。KSS作品中に、Nv王子を理想王として描くエピソードや訓戒が見られるのは、こうした社会的背景も反映しているのかもしれない。

クシェーメンドラとソーマデーヴァはほぼ同時代に活躍した詩人であるが、各詩人が置かれていた状況と詩人の趣向がBKMとKSSそれぞれに現れていると考えてよいであろう。

以上の研究について、以下の研究会で発表を行った。

- ① 柴崎麻穂、説話集『ブリハット・カタ』の伝承-ソーマデーヴァ作『カタ

一・サリット・サーガラ』の場合、水野善文氏の科研プロジェクト「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」第3回研究会、平成22年5月22日、東京外国語大学本郷サテライト

- ② 柴崎麻穂、「インド古代説話集 Brhatkatha の伝承—カシミール伝本の現存写本について—」、写本研究部会研究会、平成23年10月19日、(財)東方研究会

以上の発表内容を含め、現在執筆中の論考は日本南アジア学会、日本印度学仏教学会などに投稿する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

柴崎 麻穂 (SHIBAZAKI MAHO)

財団法人東方研究会・その他部局等・研究員

研究者番号：30342679

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：